

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第165冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第165冊
編著者名	岡崎研一・中川和哉・引原茂治・竹村亮仁・細川康晴・福山博章・村田和弘・有井広幸・菅博絵
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
きづがわかしょう いせきだいにじゅう うななじ 木津川河床遺跡第 27次	きょうとふやわ たしかわぐちち ない 京都府八幡市川 口地内	26210	4	34° 52' 42"	135° 43' 29"	20140507 ～ 20140611、 20141104 ～ 20150129	300 700	河川改修
びょうどういん きゅうけいだいい せき 平等院旧境内遺跡	きょうとふうじ しうじとうがわ せき 京都府宇治市宇 治塔川	26204	114	34° 53' 19"	135° 48' 34"	20121206 ～ 20130116、 20140203 ～ 20140304、 20141216 ～ 20150310	400 480 1,600	河川改修
へいせい26ねん どいっばんこくど う163ごうせいか かくふくじぎょう 平成26年度一般 国道163号精華拡 幅事業 いぬいだにいせき 乾谷遺跡 いぬいだにおおく ずれいせき 乾谷大崩遺跡	きょうとふそう らくぐんせいか ちよういぬいだ に 京都府相楽郡精 華町乾谷	26360	14	34° 43' 51" 34° 43' 49"	135° 46' 18" 135° 46' 12"	20141023 ～20150306	1,703 347	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
木津川河床遺跡第27次	集落跡	飛鳥～平安 中世	柱穴・溝・土坑・噴砂	須恵器・土師器 土師器・瓦器・瓦質土器・緑有陶器・中国製磁器	
平等院旧境内遺跡	寺院跡	平安～近世	杭列・堤状遺構	須恵器・土師器・瓦質土器・中国製青花磁器・染付磁器・白磁・陶器・瓦・石造物	
乾谷遺跡 乾谷大崩遺跡	水田跡	中世～近世	水田跡・畦・杭列 水田跡・溝	須恵器・土師器・瓦器・瓦・青磁・白磁・陶器・煙管・鉄製品・下駄 石包丁・土師器・灰釉陶器・青磁・白磁・陶器・瓦・煙管	

所収遺跡名	要 約
木津川河床遺跡第27次	今回の調査では、古墳時代前期から飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代にかけての遺物が出土した。遺構は、12世紀から13世紀の柱穴、溝、土坑を確認したが、建物等性格は不明である。また、奈良時代以前の遺構は確認できなかった。8世紀代の遺物包含層があり、付近に遺構が所在すると推定される。このほか慶長伏見大地震に係ると考えられる噴砂も確認した。木津川河床遺跡の時代と性格を考えるうえで貴重な調査成果を得ることができた。
平等院旧境内遺跡	平成24・25・26年度3か年にわたって塔の川河床を調査した。今回の調査では、塔の川左岸寄りで堤状遺構を幅5m全長53m確認した。堤状遺構は、人頭大の礫と木杭で積み上げてあり、平安期の瓦、近代陶磁器片等が出土し、近代まで使われていたと考えられる。堤状遺構の性格は防災施設、船着き場、堰などが想定されている。出土遺物は、平等院に関係すると考えられる平安期の瓦片が多数出土している。利水治水施設に係る貴重な調査成果を得ることができた。
乾谷遺跡 乾谷大崩遺跡	今回の調査は、乾谷遺跡・乾谷大崩遺跡とも初例の調査である。乾谷遺跡では、近世初期の畦畔を伴う水田跡、室町時代後期の水田跡と考えられる遺物包含層を確認した。遺物は、奈良時代から近世にかけて出土している。山田川の洪水による砂の堆積層も確認された。乾谷大崩遺跡では、中世から近世の畦畔を伴う水田跡を4面確認し、水田耕作に伴う溝を5条確認した。乾谷遺跡・乾谷大崩遺跡とも山田川の洪水の被害を受けながら、水田耕作が中世から近世にかけて行われてきた様子が分かり、付近に集落跡も想定できる貴重な調査成果が得られた。